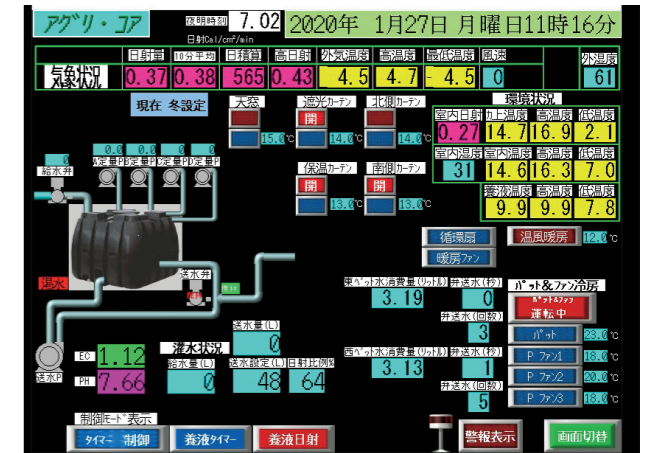




多段式栽培プラントによる促成栽培



負圧差灌水システムによるわさび栽培



環境制御システム

開発者インタビュー

農林水産業分野

Fukushima
Innovation
Coast
Framework

葉わさび産地復活・再生に挑む アグリセンシングを用いた栽培技術の確立を

アグリ・コア株式会社

実施期間：2019年度～2021年度 実用化開発場所：相馬市

わさび
アグリセンシングを活用した山葵栽培技術の研究開発

和食ブームを背景に、6次産業への発展も視野に

当社は、葉わさびの生育情報を数値化するセンシング技術を用い、通常3年を要する収穫期間を1年に短縮するとともに、データベース化を進め、栽培マニュアルとして提供します。この技術を活用した葉わさびの栽培を実証し、相馬市とその周辺地域に於いて、葉わさび産地の復活と特産品化を推進します。

東日本大震災の発生以前、霊山・月館・飯館各地区に広がる中山間地は、葉わさびの一大産地でした。2007年には約45tを出荷し、経済効果は4億円規模に達しました。しかし、同地域の放射能汚染の影響により、生産者が震災発生以前の生活を取り戻し、葉わさびの産地を復活させるには非常に厳しい現実があります。

一方、近年、海外の和食ブームに伴い、わさびの需要は増加傾向にあります。農林水産省の統計によると、海外の日本食レストランは23,600店舗（2006年）から、117,500店舗（2017年）へと市場が拡大しています。

また、食用だけではなく、わさびの有効成分（抗菌・消臭など）を活用した6次産業への発展の可能性も予測されるため、規模の拡大を視野に研究開発を進めてまいります。当社が推進する栽培技術、特に、微生物を農作物の生育

に活用する技術や、平地でも栽培可能とする環境制御技術を用いることで、葉わさび産地の復活を望む生産者や、関係機関の期待に応えられると確信しています。

技術活用の一つの例として、季節ごとに異なる日射量に即応した適切な育苗を行うためのデータ収集と分析を行い、環境制御の問題を解決します。全データはアグリセンサーネットワークへ統合され、オンライン上で栽培指導、端末機の設定変更、病害虫への対処法の提案などが可能となります。



アグリ・コア株式会社 代表取締役
純浦 誠 氏

微生物応用の肥料開発で収量安定をサポート

当社は、枯草菌（RB14）と酵母菌を組み合わせた特殊肥料「メーピラス」を2009年4月から販売しています。これは東京工業大学との共同研究から生まれた天然由来成分の特殊肥料です。枯草菌（RB14）が代謝するイチュリンAと呼ばれる抗生物質は、悪性菌に対する抗菌作用が高く、養液栽培・土耕栽培・露地栽培を問わず、さまざまな農作物に散布可能です。病害予防のほか、収量拡大、食味の向上などの効果も期待できます。

わさびの種子は、「乾燥させると発芽しない」という特性を持っていますが、RB14とジベレリンの混合液を散布することにより、乾燥した種子を発芽させることが可能となります。

さらに、通常用いる「冷水のかけ流しによる保存」よりも簡便な、「乾燥した状態での保存」を可能にし、通年栽培ができる環境を構築します。

また、大学研究機関との共同研究で得た水は圧力が高い所から低い所へ移動する原理を用いた「負圧差灌水システム」の技術を、葉わさび栽培に応用することによって、日射量や室温に応じ、根が吸収する水分量をリアルタイムに把握することが可能となり、灌水の最適化による収量の増加も見込まれます。

また、病害虫の防除体系が確立されていないことから、防除手法を確立し、収量の安定化を図ります。

関係者からのメッセージ

施設園芸のトレンドを創り出す気概

●大内わら工品株式会社

多段式高設栽培とは、苗を数段に分割して定植し、スペースを有効活用した農業システムです。この方法を用いることにより、一般的な栽培床に比べて、定植できる株数が2.4倍に増加し、小規模な面積に於いても収量を確保することができます。夏季には、ネットにより過度な日射を遮断し、冷気を送り込んで室温を調節するPAD&FANを導入することで、高温障害も抑えられます。

アグリ・コアがこれまでの栽培技術で培ったノウハウにより、省エネ、栽培期間の短縮という時代に合った農業技術を実現すると確信しています。

これらの栽培施設や環境制御の実用化に携わり、施設園芸のトレンドを創り出す機会に恵まれることは大変光栄なことであり、また、自信にもつながります。

葉わさびの産地再生を含めて、浜通り地域に於ける農業の復興、そして食の安全・安心のため、未来につながる研究開発に協力させていただきたく存じます。

法人概要

Agricore

PROFILE

企業名▶アグリ・コア株式会社
設立▶2007年4月3日
従業員数▶8名
住所▶〒979-2512
福島県相馬市柚木字一ノ坪115-1
TEL▶0244-26-9844
担当▶代表取締役 純浦 誠
URL▶http://agricore.co.jp/
http://yunuki-farm.club/

OUTLINE

研究開発を担う本社、パブリカを栽培する直営農場/ゆぬきファームが相馬市に。枯草菌・酵母菌ほか微生物の農業への応用技術を探究。このほか施設園芸データベース・環境制御システム構築、栽培技術のライセンス販売、バイオガス発電プラント消化循環システム（特許出願中）が事業の柱です。

